# 成形圖說

農事部 十三

145
30
1

東京圖書館

和書門
農書類 一四五
函 一一五
架 二一〇
號 二九
冊 三〇

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1

ガラス使用

# 成形圖說卷之十三

目錄


農器（タノウツハ）
耒耜（スキ）
附犁具（スキノソナヘ）
鍬（クハ）
鈒（ウハ）
耙（マヘキ）
鋒（ホコ）
杈（コハ）
钁（オホクハ）
鎒（ナヘキ）
耨（コヤシ）
斫（ヲノ）
椓（エブリ）
鎛（サラヘ）
鏟（スキ）
附鐙鋤（アブミノスキ）



TOKIO LIBRARY
ESTABLISHED BY KIOMBUSHO 1872
東京書籍館蔵書印
明治年文部省交付


成形圖說卷之十三


国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

附 鎒鉤 八鍱金才
附 穀杷 耘杷
附 鵜觜鋤 長鑺
鎌鍥
鉄銭
橋掲
拖杷
連枷
臼碓
礱磨

附陶臼

附篩穀拐 箕籠
颺扇
颺籃
附千斛笪

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

農事部農器類

田乃器（タノウツハ）書紀○和名鈔ニ農具トいフ

農器孔子家語銷剣戟ヲ為農器ト凡田器耕器農具耕具ナの名ありて実おなじ○宋仁宗實錄ニ云呂夷簡通判濠通ノ二州ニ往河北ニ按行水災ヲ還奏ス田器有ノ算非所ヲ以ニ重ク本ヲ請除シ之ヲ因テ詔天下農器皆免ス算ヲ

田器 禮記月令

蕃名

元正天皇詔ニ曰朕巡ニ京城ヲ遥ニ望ニ郊野ヲ芳春仲月草木滋榮（サカエ）東候始テ啓（ヒラク）丁（アタリ）収就隴畝之勉ニ時雨漸（ヤウヤク）渥（ウルホフテ）有蟄蠢浴灌之悦何不（ヤ）下流テ寛仁ヲ以テ安黎元ヲ布涼化而濟（スクヒ）萬物ヲ乎宜ク給ニ戸（オトナ）頭百姓ニ種子各二斛布一常（ツネ）蚕一口ヲ令（ムル）中農蠶之家永（ツネニ）無ニ失業ヲ官學之徒專（モハラ）ヲ





国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

忌私ノ又養老五年詔諸國官長等に鍬各二十口を賜ひ農
耕を勸勵さゝめまたその農戸にそれ〴〵田益牛馬を
おざれバ耕穫とゝ遠のかつひやし耨耘(カキリ)の功をい
ちぢるしからぬものあれバやはり又百姓の田畝を貯ふ
るたゝ宜しく武夫の兵具を藏るがごとくあらんが
しいうそのの好農具をおくらそこにあつつそ
く耕し耘(クサキ)の倣工(ナラヒ)こまやかあらまほしき鉏劍鎌鋤
の類をもつざるものくふの鍛冶の巧拙を鑒覈して
純(コト)を試ふぶよ異あらバ天下の未豐太閤既よ海内を
亂ばして百姓の刀狩令を停止やられしハ一揆を戒む



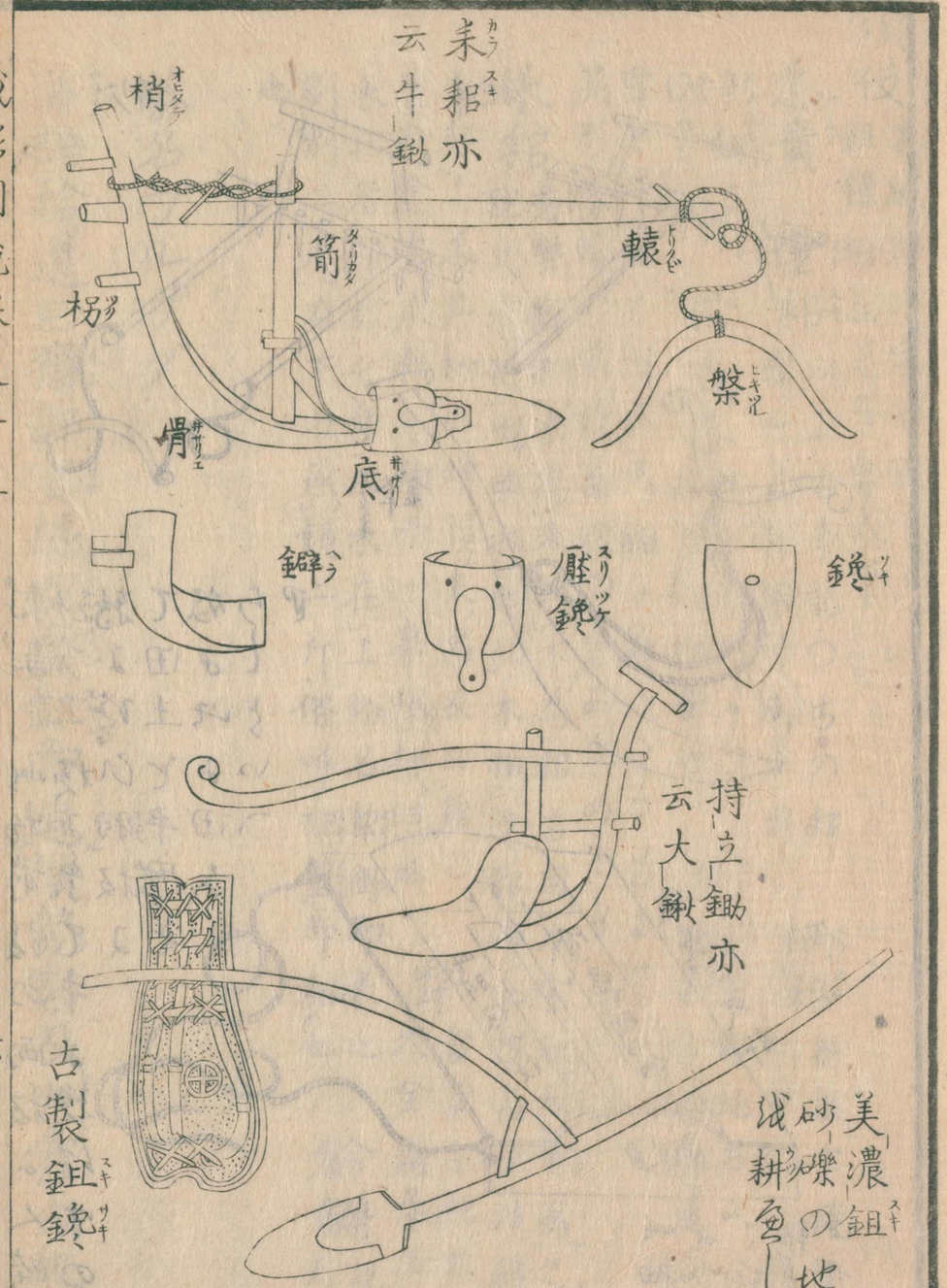


るの心得まて條書の中よ百姓ら農具さへともち耕耘
とゝるよりくぬまで子孫おのづから長久あるべき
と唐莞の寶劍を農器よ用ゐられしごとくあるよ農業
心掛ゐしらんそうら蓋唐斐度ゝ鑄(テ)劍戟(ヲホクノ)爲農器(ト)賦あり
凡五方乃農圃一刕の内ふしてを所用ハ各いそくを
名狀ハ立よ同しうざるものおよて覺くもあれバ又編(アミ)を
畫寫るふ及びがし絶域まてハ耬車砲車の碌碡(ロクロ)
磤礰(ドキ)石磹(タヽキ)の制ゐら極そを巧便あるを稱道ゐといへども
今此方の者故して俄よ之を使ハゝあゝば終(トヲモス)日よ碌(ロクロ)こと
して沖繩(オキナハ)の人よ雙刀城佩(サヾ)もちんうおと緻(アヘ)て脅喘

くる垣さゝむ然ども心を変ずる者あらバ農家の
小補ともあらんが況や民事ハ常ニ遑あき故ニ
力を役るまゝ苦しまず凡耕地の法ハ犁を通じたる
うへ秒、拔用るものこゝに莓を盡ふまでもくてらく
しかして稲田平ニ沃壌熟あるの全功ハ猶ほ
生うる処農の事常ニ緊苛ニ支られて耕耘數徧うる
ニ新稗を抜挿ニ旦ハ其穫収揚治など常ニ村ニ滞き
候ニ應ずるがゆゑ動もすれバ水雨暘の和気を失ふの
憂ひあり是ハ養老の帝寛仁を流て菽物を滋ふるの
衣糧を先ニして饑寒の苦を救ふ同て盤地俾ゝ



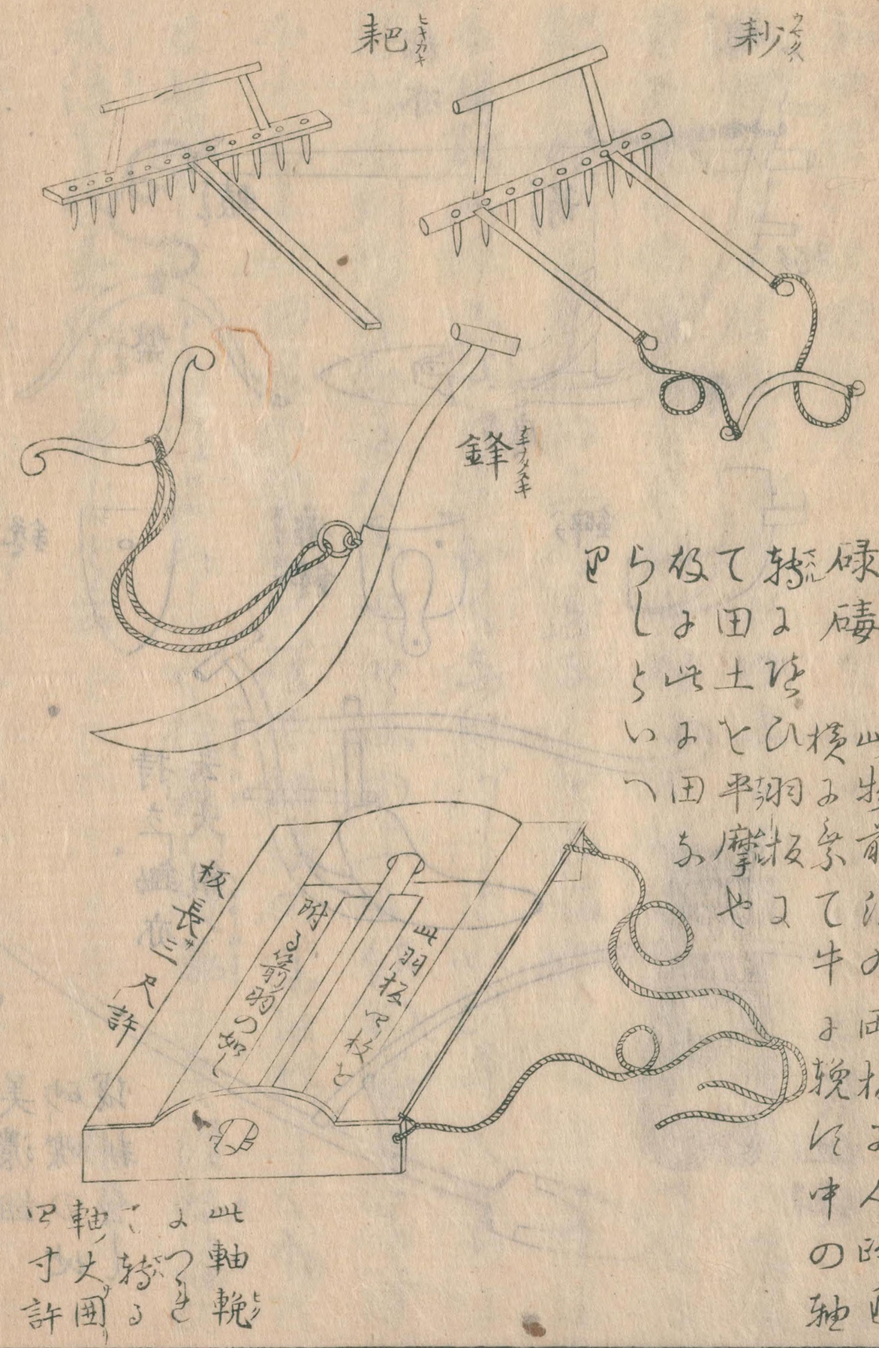

むるニ嗚呼我　先王黎元を安ずるの通ニおかくの如
かして固空の隆あるの時まつらバともすれバ
あるべし因し　朝廷の詔ニ曰今者有司奏言諸國罪人惣
四十一人准ニ法並當流以上者毎聞此奏朕甚愍之宜所奏
罪人並從坐者咸皆放免勿案検焉　日本國中の罪囚僅
ニ四十人餘をゝて天子の慮憲ニ煩悩ませるふとある
見て萬方有辜在予一人ニあらさるを想像ニなるべ
おそるゝ南史云宋高宗微時躬耕及受命耨耜之具頗
存命蔵之以留于後文帝幸豫宮見而色慙近侍進曰大舜
躬耕歴山伯禹親事水土陛下不覩遺物何以知稼穡之艱






難先帝之至德乎志ろるよ今わざし國ハ人ろきあしく
土地もよろしからざるがゆゑよあまるのそしへ言よ
里あまるの寫なるく耕しぬるよぞあらるとも文よ
記しぬるよそあの上乃寫ふどともあやうよとろし
くに就つくろよなくおくあせげといひ薬だろよ
惡はしうづるあれおいそくふしあるまバ田畓の箇當を撰て耕作の業丹精しく勤ん
ことねさむとのはよろしく徭爲く後節して後稼穡の
成績よや表作る負しとそ

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用




緑礴 穿ひ掲ぐる為の枝ニて枝ハ羽状ニ平摩やらしい

須伎 書紀耜の字ヲ刻ル
鉏鎒 鍬ほるを書ク
志貴 金耜以上古事記○古の耜或ハ木を用うるなるへし
於古志 土を起ルを云
牛鍬 東鑑地名よい〳〵今山陽道よりて
柄耜 新撰字鏡犁ヲ訓ル○内膳式
犁 耜新撰字鏡○内膳式
耜 説文耒ハ耕ル田ヲ曲ル木也从木推ル手耜ハ耜ノ耑也○孟子注耜所以起ル土耒其柄也増韻ニ耒ハ耜ノ頭又曰耜ハ農政全書ニ耒耜二物而一事ノ攜ニ杵ヲ也
耜 食貨志鞅ニ犁易大全謝疊山云耒耜者今謂ニ之犁曲木在ル上俗名犁衡ト也即耒也
鈐鐴 説文犁耕ル壟即耜也

蕃名プルウグ

古語拾遺曰齋部官掘ニ以齋鉏一而造ニ伊勢宮及大嘗由紀主



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

基宮蓋上世の時鍬てよろづの田を耕し土を起しものゝ
かりよあ〳〵須凡ハ去穢掃地の業ありバその名須伎と
いひまた大嘗會の時由紀主基の田ゝいふあり由紀
ハ斎忌ある主基ハ次ぎて亟て清酒の事ゝて又古事記
雄畧の大御歌よりもとよりいふ故号其岡謂
金鉏岡也ゝもゝえめるハ土を掘ふるのまよりいふ
ゝり書紀よハ御田鍬てよ人名あり又送飯といふのをて
くゝ新字鏡よけ鋤をいふすくと凡物を取上るよ須
久比の事わらふに梯をもちけるとよりいふ或ハ魚をも網
や結紙をもすきあど沓物をもとりて取上ゆよりて抜菜

子よりてるも萩もゝきあどうゑてそゝるを長摘ゝゝ
るもの物ゆどものきさげてゝぐもりてゆよりていゆるこ
そわびさうねぐからけも蓋太古の耜ハ或金或ハ木か
ゝゝ木の柄を挿しつゝ柄耜の名ハいでまたありとゝん
えゝゝ手製のまゝハ浅ゆよハ韓よりもゝしよ物されど
神代のはよりゆをて田を耕しあるものありしよいつゝ
美濃の耜てふものゝおゝゝゝゆて或ハ耜の柄を曲て幸
せゝゝん西土ゝてもりゝゝハ木を曲矢らして来耜
作るとゝ又漢書よハ九真の俗牛耕を知ゝぐるゝ事
ゝゝゝれど西土よも中よかゝゆるやしハ後のわざもあら

金布(カナ)久志　端(サキ)以上和名鈔　柄(カラ)耜(スキ)乃端(サキ)　耜端(スキサキ)平(ヒラ)ゝ也中ゟ少し高く弁あり
長サ八寸八分許　濶サ五寸八分許
鏡陸奥蒙耜經治レ金而為之者曰レ犁鏡起レ其撥者也　鋘(ハバキ)秘犁鏡尖本艸
蕃名子ップロイスル
篦(ヘラ)新撰字鏡　柄(カラスキ)耜乃緣(ヘリ)訓蒙圖彙○篦長一尺一寸許濶七寸八分
和名鈔　門良二枚　許端篦二ッ八詰鋘にて造る○内膳式
鉾四枚隨レ損請
鍬和名鈔引唐韻犁耳也亦作レ壁○農政全書覆レ其撥者、壁
也其形不レ一耕水田曰レ瓦緣曰高脚耕陸田曰鏡面曰碗
口隨レ地所レ宜制也
蕃名
居去(イサリ)　木以上和名鈔

耒底和名鈔　犁底農政全書
蕃名
揚(スリ)附(ツク)けのもの八底板の磨き込やうになる鋘をいふなり
鍬農政全書
蕃名コウトル口イスル
居去(イサリ)乃柄(エ)和名鈔
耒骨漢語鈔　策額農政全書
蕃名
絡(タブリ)耜(カメ)形和名鈔篦金とゝくばかりのものなり　多々良
耒箭漢語鈔　犁箭農政全書



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

犁丙延喜式

犁轡　犁轡以上鄉談正韻　犁柄過庭録

蕃名

凡犁ハ打廻ス持鎗ノ二件ヨリ打延ハ底板より梢ヲ除ク梢の字ハ片枌各一枝出したるを云ふ木の枌ヲ執ル耕ス者ハ土浅深ヲ自由ニ左ヅシ○持鎗一名ハ打延ノ端ハ板如ク而シテ梢の端ハ撓ム故ニ桜轅ヲ以テ押ヘ添ヘトモ緩ムヲつよく押ヘ添ヘトモ犁ハ弱ク押ヘ添ヘトモ犁ハ深ク耕ス故ニ犁ヲ取ル者ハ自由ヲ得ル凡田土

取首和名鈔　福利訓蒙圖彙　長柄

耒轅漢語鈔　犁轅農政全書

蕃名

追立訓蒙圖彙

耒梢漢語鈔　犁梢農政全書

蕃名

引鉤俗音備　尻懸和名抄　尻雅

耕犁農政全書ニ犁具也與轅相為本末ト曰ヒ犁轅經横於前ノ末ニ曰ヒ盤

と起發(オコシハツ)いと淺深の交錯(イレチガヘ)昔の耜を宜(ヨロ)しく延(スキ)鍤小に一ッや
うみく後ともそのつゝ重し持鋭(ヘラスキ)鍤いと多(テダ)く勉(ツトメ)者ありて
らざりし猶搏(モチツカヒ)使(ツカ)ふこし凡耜(スキ)も十人の力よ
代(ツカ)とこの曼(ヒロ)一足ゐ人のみにはみな一ッの鍤(スキ)にみつけてつゝ鍤(スキ)
又耕(タガヤ)す太巧拙(ワキタメ)のあるまでもの鍤(スキ)のよく
反覆(カヘシタフ)と上(ホテ)るものおそくも凡人はいつみに及ぞ牛馬共に
晝日泥中(ヒメモスドロノ)より入て輓(ヒカ)くる時ハ甚(イタク)罷(ツカレ)て後ハ脚(アシ)を引摩(ヒキスリ)がち
くなれる也○近江美濃(ミノ)の水田ハ深(フカ)く埿(ヌタ)ゆゑ牛耕を用
のがたく人各一耜(スキ)と秉(トリ)て田を耕(タガヤ)すを大(オホ)なるゆゑ故(ユヘ)大
鋤(スキ)といひ小(ホソキ)をば小鋤(コスキ)と称(トナ)へ又(マタ)字(アザ)訓(ヨミ)をも多く誤(アヤマ)れり

発し田を耕やす馬牛の農事における尤(モトモ)とするものなり

## 久波古事記

鍫音慥(サウ)溝洫(ミゾ)志(シルス)○漢書古今謂(イヒ)鍫(スキ)一名宜(ヨロシ)通用(ツカフ)蓋(ケダシ)今の俗(ソク)もまゝさうい
ふごとし方言燕之東北朝鮮洌水之間謂之廓(ヒラ)宋魏之
間謂之銴(スキ)趙魏之間謂之臿(サウ)江淮南楚之間謂之
鍫(スキ)或謂鍤(サウ)江淮南楚之間謂之臿(サウ)今の
鋤(スキ)也　鋤音鉏(ソ)集韻即(スナハチ)與鉏同故(ユヘ)鉏鋙(ソゴ)亦作鋤鋙(ソゴ)字彙鉏
立鋤(ソバタ)なり○左傳註耨(ソバタ)鋤也

## 蕃名ガラアフ

久波(クハ)ゞは啖(クラ)ふ歯(ハ)ともふごとし牛を所(ト)
き咬(クヒ)られるごとくあるよりの名つけしよそ凡鋤の





国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

端尖るを筒先ともいふ方あるを
和名鈔に鎒を久波そし字鏡には鋤
れバいめ〳〵ハ須伎久波而てい
のおそし加土まても古ハ雨とも
てほハくして耕たるものを指
もて鉏そもおよそなるも舊事玄義曰男弓弭之物忌
鍬忌鋤類是也とも志ほしられバ古ハ鋤鍬なく
よ元一ふくくるも畿内神祠ハ鋤鍬なく
狩遠ふる尾張風土記海部郡大井田鄉出年貢籠鋤鍬
鎌等民用繁又むり鍬發て鍬をいそもあり今ハ

ゟ鄙の農戸がもたいとちりきと大神宮式凡操營神田組
鎒柄者毎年二月先祭山口及木本然後採之　大神宮鍬
山の神事のおと雑例集に哉ふる元禄の頃ハ神
し林まて造ふる鎒形ハ宮神主の神事ハ用ゐ
と号みし事るど何ゟ按ハ神名式尾張國諸鍬諸鑺等の
神社あり今ハ更ニハ鉏一ッとあくして一ハ押へ一ハ
引つゝ耕やと是諸鍬てゝものゝ遺法ふるへし
周禮注古者耜一金両人併發也とも論語耦而耕ふどゐ
れバ和漢ともいかゝ一つのわさハ一揆ゟや又蝦夷ハ
鍬先てゝ物ゟ極て大きくいみしへ諸耜の屬まて先
王夷人へ農と勸ゟ爲ゟ初ゟ所の鍬ゟやゝ一辺にハ

秋先ハ夷人拯て妻子と窖として病る時ハ枕神ヨ立て災
を禳ふ物あり慈姑の葉乃至るゟ多ふ貴の秋形をか
ゝらものなていふしへハ雲霓をみるせしをみるゟ又
冥凍ゐて牛耕を用ゐを其民水田を耕ゐ秋ゟ番を結
ひ菊て牛水と搏ち物泥の激てタ々と覓ざるゟ倚ふる
ゟの淮南子謂禹之時天下大水禹執規矩以為民先
之間南方言謂之畚畚而ゟ行べし

馬鍬延喜式

馬歯鞭色立成

毛宇賀

音抄三才圖會○農政全書
耜と耙を分て二物とゝ

蕃名

此ゟの馬ゟ整て田を作ゟ具ゟ
ゟ馬歯ハ形ゟ多ゟ或云即馬鍬の畧ゟ
麻年具波などゟがゝし凡一番打起の時田中ゟ莊
ゟ踏入つく水ゟ攪ゟけて馬ゟ此ゟ輓て田土の堺ゟ碎
なゟ泥濘を一面ゟ熟均ゟ馬ハ終日泥濘の中ゟ引ゟ
され疲困ゟ脚冷ゟ干ゟ泥ゟる物ゟ
ハゟく打して血ゟ忘ゟ恩ゟ妄ゟ使ゟ労ゟざるゟゟ
ゟまされゟ○凡耜又人馬水陸共ゟ用ゟ漢ゟて



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

は犁の後耙我国も耙の後耖、砕、礰を用ゐ

涯加伎 定家假字遣

涯佐良衣 輓耙

耙音琶、亦作欛、耙篇海犁屬○和名鈔引唐韻耙作田具也○說文平田器○三才圖會列鑿方竅以齒爲節畦畛之間捜剔塊壤○農政全書宋魏○陸龜蒙云凡耕而後有耙今日只知犁深爲功不知耙細爲功全功蓋耙徧數惟多爲熟則上有油土四指可没鷄卵爲得耙方耙 鍬器 以上農政全書宋魏之間呼爲渠犁又謂渠疏 鋘齒鎒鍫 齊民要術 人字番名

此外の延喜内膳式等み陸田我耕ひ耙犁といふあり

海ちう国て馬耕ふ代み田のごとき耙いまだ徧からざる或ハ馬牛入がたき狭隘の畦畔の畝町狭窄など一人耜き一人之を按田土を疏通るなり又陸田みて一人卻行して耙ふく耙盪ふるものあり按ふ漢の人字耙ハ人手上ふ載て牽ふるとありふ按ふ涯ふまたふ畦ふえとふふるもの手田土を耙盪ふ涯の用ハ金を回しくて定まれ未柄し索緒ふ著ふ

長刀耜亦長刀鋤ふも云長刀ハ長き刀の名ふままれしてなふ雑刀と書おとふなり

小柄耜

鋒齊民要術○農政全書ニ鋒ハ古農器也其ノ金ヒ犁鑱ニ小ク而加銳ス其柄如ク耒ノ首如ニ又鋒ノ故ニ名ク鋒ト耜ニ其銛利ニ也若堅格ノ鋒而後耕ス牛乃チ省力又不之ノ又農書云無辮而耕ス曰ク耦ト固ニ不ニ必ス耦益鋒ト與耦相類ス今耦多用ニ岐頭若易ノ鋒ヲ為ル耦亦可代也近世農家不識ニ此器ニ亦不ル知名ヲ茲ニ特ニ錄ニ其功用ヲ一知ヲ為ル不ル可ル廢也

蕃名

此ものは新開の平地と牛馬を服控して草木芟刈し跡の乱根を截斷ち用ひ所ふ足ル眉尖刀ノ如クニ而シテ脊の方に鋒刃とつ柄ハ耒の如くしゆるに堪ル耕索を貫し牛槃小整ノ如キ柄の端へ挿ケ接ぎ畜の力をもて輓ケるものなり土塊ヲ耕ス鋤犁前轅の轂と切通次ぎ利剣毛と吹の快ノ如ク比次第しかくして後

犁刺ノ如ク大ニ人力の勞を省き敏小墾闢の功を遂るの藩嘗ニ此ノ類の器の形製を用ひるもの歟の異名ありふるものそれの制ニ等ふ

小鍬書紀○集解ニ見ユ

小鍬鍊亦小鍬の名あり

古須岐漢語鈔○或云足亦小鋤也

小扱

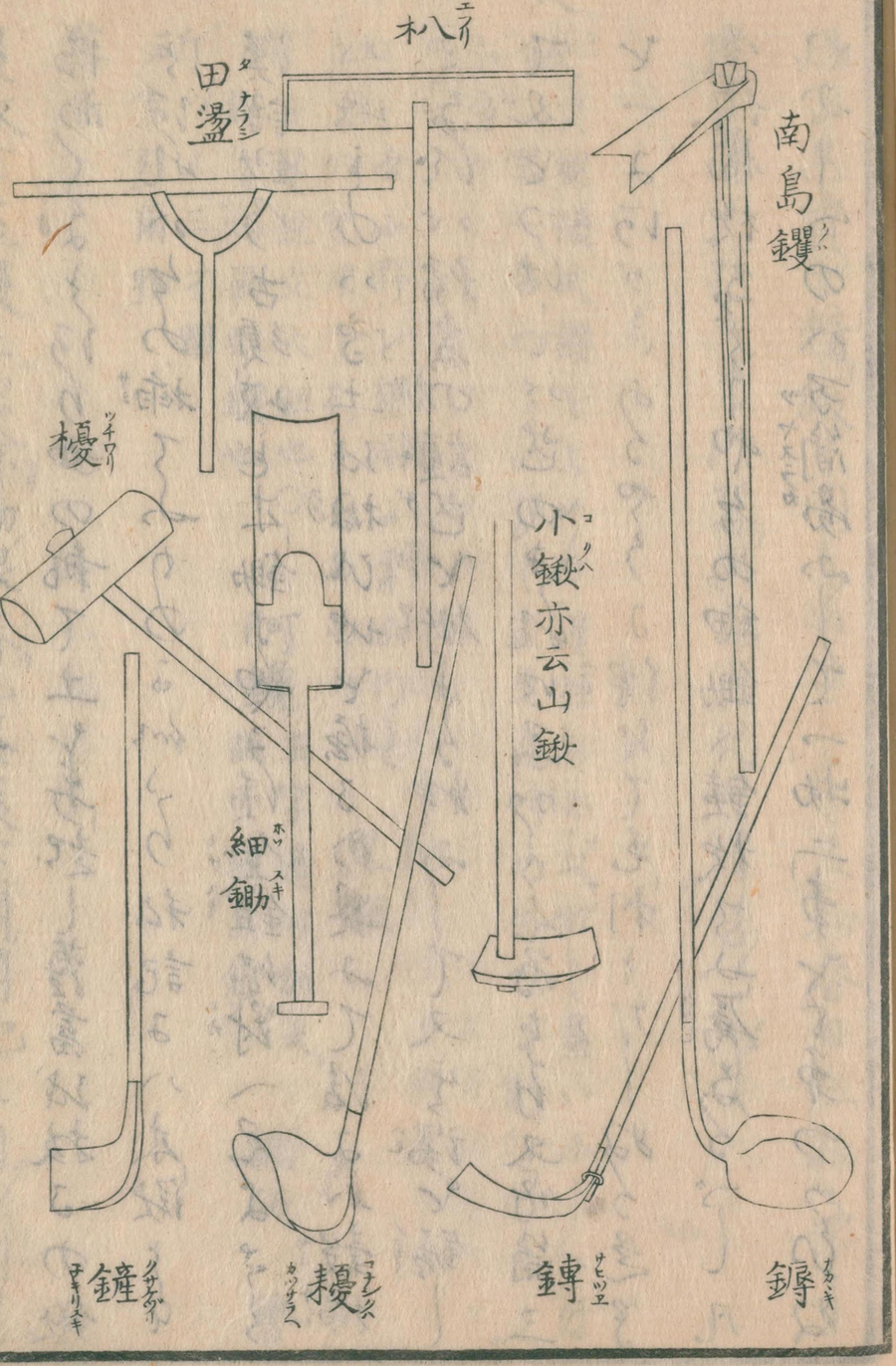
細鋤音發亦作楯○和名鈔ニ引唐韻ニ枚ハ鍬ノ屬也○農政全書ニ枚ハ柄ニ屬但其首方ニ闊柄無ニ短杨ニ此與ニ鍫ニ異也椵ハ鍊為ル首ニ謂ニ之木枚ト可之鍊枚ハ惟空ニ土ニ工ニ剡ル木ヲ為ル首ニ謂ニ之木枚ト可樑穀物ヲ以ル竹ヲ為ル之ヲ者淮人謂ニ之竹杨枚ト

蕃名アールドシケップル 掘土ノ之器

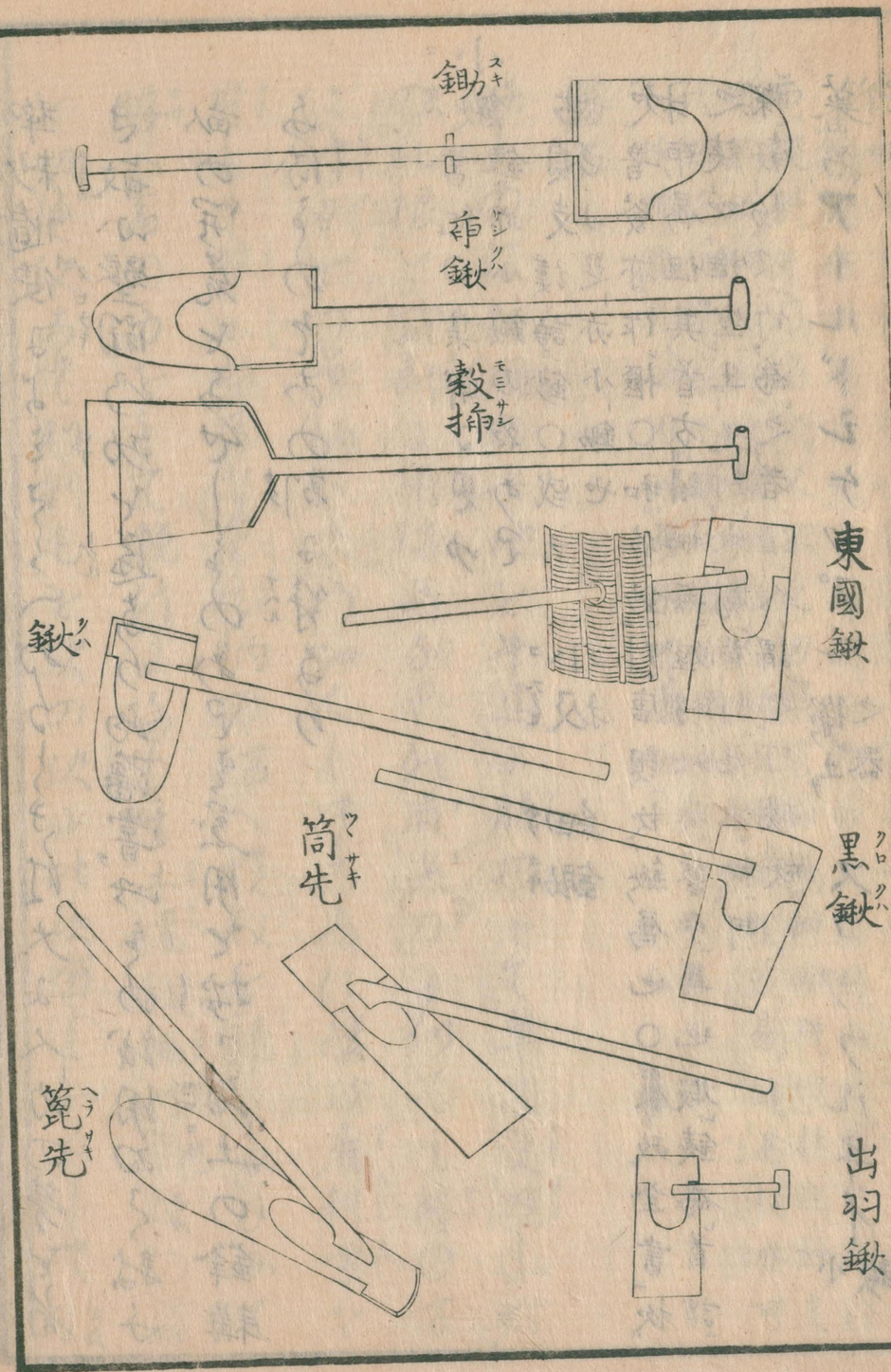
スコッフル チイ 小鍬



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用






国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

仁徳の大神教か継根ふ山芹女乃ふくは揮うちし大根
ちわくまふくりの女の軽て土を打起し蔓茂抜るの鍬
ふくれハその柄てふりのまゝ
漢語鈔乃古須岐も木鋤まやふ
ハもものハ土球ねひやと掘るの具みて活ふみ穀掘
ふきあれハ掘穴の頽芝と衝まふ料みて又生端を鋸し
て処とつけしハ芝のきれにふかふんるをもり又竹筒三
を一ふいづきあるやうふ傳付て毛刺となしぬる是を
ハ竹掘枕ふどるやふの細鋤ハ鋭枕てふ属あるでし凡
いかしへのハ万簡易ふして一物二事を兼つらぬ

殊ふ其質ふ精緻牢固あるきふも大和春日三輪ふどふ
遺ふ多むりて器具ふどを造てもあるでし

大鍬貞観儀式鑺とよめり漢語鈔亦おなし蓋いふしくは
二器一名のまゝ或ハ是者南時の俗呼ふ楼まるもふ
ふ歟
ちぐぞ

山鍬本山野を墾開ふ勢ふのふ
山鍬のを用うふふ此名あり

黒鍬

鑺音鑿説文大鉏也○
鑺鍤音妙爾雅鑺也
斫以上三才圖
會引爾雅

阿鑺正字通訶訓大
譌而為烏鑺

錯斫

魯

蕃名

農政全書鑺主以除物根株也蓋農家開闢地土用以剷荒

凡田間山野之間用之者又有閣狹大小之分總名曰鑺按
圖說所云鋤是也

方中把亦中挽云
前把和爾雅

鎒音耨今作耨農政全書○爾雅斫謂之定廣雅定謂之
耨○孟子易耨○淮南子治國者若鎒田去害苗耘而已
○字詁耨頭長六寸柄長六尺以芸田也○左傳註耨鋤也
但說文穮耕禾間也云云中把のわざよいかゝや

蕃名

凡耕と加幾ともつゞけ要ふかき深田の代かゝれてぞりふ
くるも耕してばかりおれしきがおとし此うらの裏、

亀の甲のおと中隆くぼらへ蜜柑などの畦隴我挽て
郤行それば壌ハ随右へ分きておのもと根ふ耘ふ
已故農圃陸田を培壅るの要器とせり

古奈志鍬土を和熟するをおもにいふ
勝耙加賀鍬

耰音憂說文摩田器○論語註耰覆種也○莊子註耰鋤
也○淮南子耒耜耰鋤○史記耕之耰之鉏之耨之

蕃名

按農政全書耰鋤の圖ハ方云耰為鉏柄也未詳ゐゝざゝ
かゝる又云北方陸田擧皆用耰鉏江淮間但用直項鋤



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

頭双雖鋤也其用如劇是名鑺鉏とあり志ゐれが耰鉏ハ
北方のものて鑺鉏と一物あるべし

衣布利漢語鈔　把寄の約　田奈良志多識編

古與世　音ハ或作喪桒和名鈔引郭璞方言注把之無
ふるを　杁歯者為杁○三才圖會所以平土壌聚穀實也
凡水田渥漉糟熟然後踏糞入泥溢平田之面乃可
撒種此亦田溢之用也是亦碌碡と同功あり

蕃名コロップル　田溢農書

掬み柄實なる西洲實を夫利といふ
具ふく塵と換入るもの箕のごとくみし柄とつゐと

又埿田ふるの耜を鉏をとぐごとくよまゝぬ
所をもまて杷まぜ泥を溫し耕よ
面と溢平よ用ゐるべし凡ハ田のものハ土俵把要ゆつゝ
一日

土破和爾雅　田打槌多識編　田槌俗語度半知

横杁集　眠寤　田槌の訛也

櫌音憂字彙　打堀槌　木斫　塲槌以上三才圖會可下以平田疇擊堀壌ヒ

蕃名ビユークハアムル

まゝのあるハ堅塔と雖きあるハ藥堺城ゐる学ゐ用



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

るものなら又稲穂抜将落しく垂芒毛あまるみ
のもの抜使ふ形常の抜みは
のかきなを利迂濶くて抜用
お斧抜使ひ棒抜用るみい
ま抜とかくのおくる
却て抜壊ちる事多し

鋤 漢語鈔○天武紀ま小子部連鉏剣
杖 佐比と訓れバ鋤を亦佐比と
草刀鋤 多識編 釿鋤 和漢三才圖會 草取鑵 其形異なりとも
小鍬 訓蒙圖彙 馬耳鍬 農業全書ま歯の長き馬の耳なるを狭きと
鑄 音博 和名鈔引國語註鋤属也
釋名 迫地去草○詩傳鑄鎛也
舊名

狭田の草去具ありて書紀ま韓鋤之剣とあり古事記傳ま
佐比は物を截断貌を云る言ふて須加比の切なるせ又
古須伎を延て須加比と云るが略佐比の幸
言の須加比と同き故ま通はし借ま
倭之剣小刀著其頸其鰐者於今謂佐比持神とあまび刀
剣乃ふきものを毛鋤といひさゝび鋤杖ハ杖の端に
鋤抜著るの名ありて薙ま蔭まるの心拂ふ
るべし一説ま津ハ助語鋤津一説ま鑄ハ今俗ま柄
の得と稱ふら空抜物鑄ま云ふ引
うておとゝ里のるてくれの
云つまてとのらさいつ云ハふき杖とまめぞも

けつらとゐれバ曼を鋳(サヒ)るや按ふ大神宮式ゟ金銅鋳(サヒツ)
二枝莖長各九寸三分
輪徑一寸一分 これ農器ゟハあらず

草削(クサケヅリ)多識編

韓鍬(カラクハ)和訓 根切鋤(ネキリスキ)江戸

鏟字彙作鋤三才圖會兩手持之俗用前進
攪之去隴草就覆其根溝田著皆用之
鍬非鍬殆與鏟同慕文曰養苗之道鋤不知耨耨不如鏟鏟
柄長二尺又廣二寸以刺地除草此鏟之體用即與銭同

刻鍬(キザミクハ)全浙兵製

蕃名(アダナ)
鐙鍬(アブミクハ)形ゟ象るもの

鐙鋤三才圖會刻草具也柄長四尺
○按漢ノ鐙ハ壺のごゃし

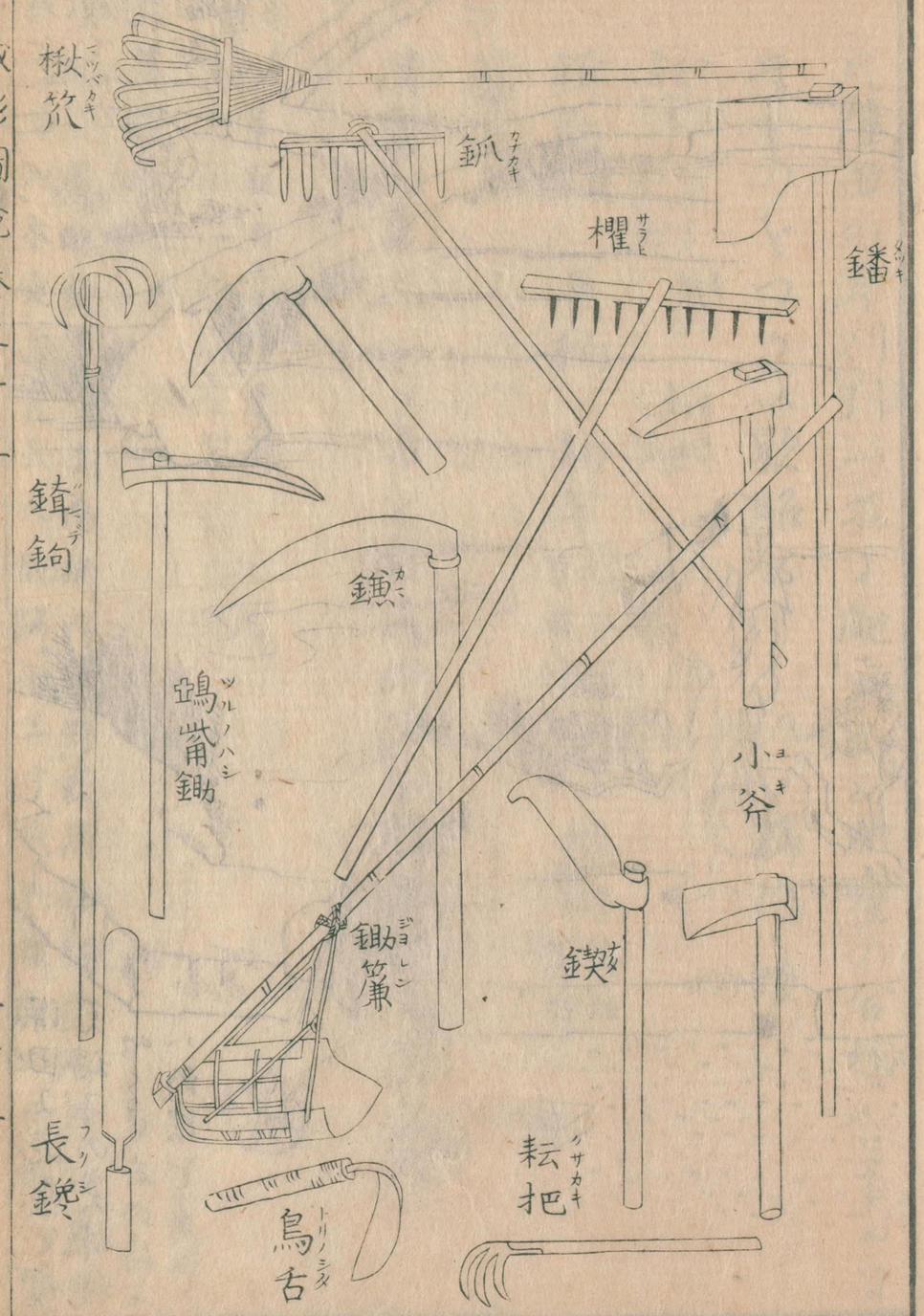
金鉤(カナカキ)

櫛代(クシロ)以上漢語 鈔(サラ)渠溝の淤泥(アヅドロ)を浚(サラ)へ鋤簾(スキス)拗(ヒ)き取るものゟあり

音柏和名鈔引 鋘(ハツリ)切韻鉤(カキ)鋘也 鋭搭(ハツリ)鋭把(ハツリ)以上三才圖會○農政全書南方農家或(キ)半犁(ヒキ)攀(テ)此(コ)以代(カハリ)耕墾(ホリカヘス)取(ル)其疏利(スルドキ)仍(テ)就(ツケ)鏽鍥(ハガネ)堪(タヘ)壊(ヤブレ)又折(ヲレ)木爲(ツクル)器(ウツハ)ゟもいつ

蕃名ハアク鋘 モッドルシケップ(カナカキ) 鋤簾

金鉤ハ狭まて造(ツクル)ゟ爪のごとくなまびかまそい
ふ櫛代ハ多(オホク)禹の指ゟ如(ゴト)くなるもの名あしまるゞし又鋘(クハ)

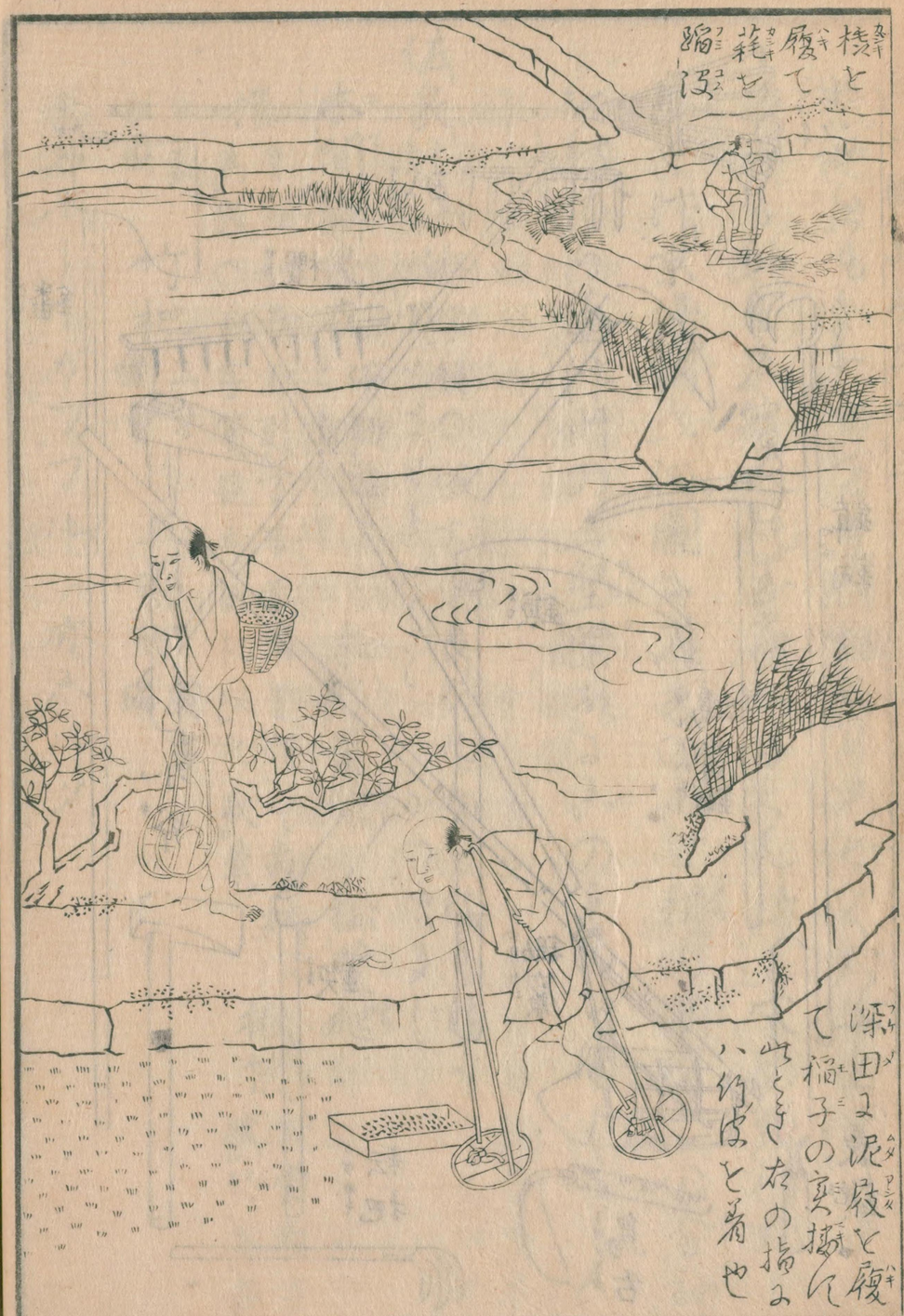





代也ともいつわり万葉仕調くそ
ふるもかも大宮人也も藁かつ
画く汁京清明上河圖お農夫の
もちて畚汁州の土堅緊なよ
佐良比し新撰字鏡○俗言佐良衣凡物と復し清
耙擺ガごときもさらへふるの清多し
木間佐良衣俗駒掻ふ木乃葉耙
欅音劬和名鈔引方言云齊魯謂四歯耙
為欅○品字箋箙五歯耙以之取草
以取竹杷三才圖會五歯耙圖書
松楸編
蕃名ホーイガフフル亦ホルク



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用




凡陸田の草刈ニ不ㇾ用肥壅或ハ壅ㇾ根
ものとつゝ顕昭ありさらいふ掃除もの

熊手 亦言熊手鉤 土杷

鎒鉤集韻 長鉤 鉤竿 以上通鑑竿或作ㇾ干

蕃名

溝渠の蘩花とゝもらみの流と踈通次の実ものら

撓鉤 海防纂要

草把草取ㇾ之ㇾ形大小一ㇾ之

草取 以上和訓栞

耘杷農政全書以ㇾ木為ㇾ柄以ㇾ鐵為ㇾ齒用耘ニ稲禾ㇾ又云耘盪形如ニ木叉ㇾ而實長サ尺一餘闊サ二三寸底ニ列ㇾ短釘二十餘枚ヲ簀



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

其上ニ以貫ニ竹柄ヲ耘ル田ヲ之際農人執之推盪禾壠間草泥
使之溷溺則既ニ勝ニ杷鋤ニ又代ニ手足ニ水田有ニ手耘足耘
穀佐良衣 多識 古通波和漢三才圖會盖
穀杷農政全書 穀杷の音訛なり
用ル撒ル曬ニ穀ヲ 透齒杷 同上

蕃名ハアリ

布久志 萬葉集○和名鈔加奈布久志
金篦 爲乃舌 布久志を形よく象れり
長鑷 杜甫寓同谷縣歌○集韻鑷、土具
盖挈具と名同じく物異なるのやうにあり

取鑷 和名抄 雖
墐刀 土民切削去田畔ノ穢ヲ

蕃名

萬葉代匝記曰布久志ハ金まて多くのやうにあり

て菜摘女のおもふ事まてそこもる
里當ハ布久世ちかて 畧解ヲ布久志ハ保留の約布
鶴乃巢 固本 ちかてもる事といふ
鷄觜鋤 歙硯譜

蕃名ビールハアムル

是石匝の具ちかつぐと田器亦多しと雖

加麻古事記○和名鈔引方言刈刻
祠鎌 柄和名加末豆加 即鎌柄
刈小鎌 萬葉 草刈鎌 多の野乃草
集 刈小鎌よきつめ
良須鎌 又鉈鎌あり刈稻ヲ
又刈或栗茅ヲ斫ヲ鉈斧ヲ代ル



国立国会図書館 タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1 ガラス使用

鎌音廉亦作鐮事物紀原鎌ハ三代之田器也○鍛集韻鎌也○正字通刈禾鎌ヲ曰刈鉤亦曰鉊曰鍥詩銍艾朱傳穫禾短鎌也小爾雅截穎謂之銍○三才圖會刈カ穫麻カ也

劍鎌全書

所稲鍥珠璣

蕃名シノケル

加麻ラハ刈ありら鉤ありら駿河風土記引香具山日記ヲ曰天叢雲劍或稱草薙劍草薙亦別名也草者生無主之地此草原自天孫降臨而後無草叢之神自專輝然鳥獨如繁叢逢利鎌拂其草葉故天孫降臨之後有草薙之号又齋部記曰取燒鎌乃敏鎌之義とあれどもいかゝ物とそきまり除ル鎌の草薙ヲ刈切の敏功ありよ覚ゆ藤原大織冠の澤ヲ鎌足といふ名ハ鎌ヲ以鹿ヲ狩逢ヒ入鹿ヲ斬ラントせしとき功ヲ採揚て名ヲ賜ハりしとかいふ新撰姓氏録ニ載ル所ハ誤ならんそかしかるにおいふ人やおほすらん○瓊矛拾遺ニ昔者加冠理髪擇有徳人以鎌剪髪之未今按理髪ヲハ理髪ノ謂ありて三長記ニ曰承元二年十二月廿五日東宮御元服被理改御髪云々東宮ハ順徳の御事也又類聚雑要抄ニ曰理髪具案為別ニ雛髪ニ故訓理ヲ如字末額髪二流箸釵子彫櫛二枚本結日蔭鬘云云按ニ本結ハ神祇式ニ髻髪ト書リ俗ニ髪ヲ弘ムルヲ髻ヲ結ノ字ヲ以テ髻ヲハ誤ル後ノ俗ヲ改ムルヲ以テ而已ヲ生ノ字ヲ使ヒ分ルヲ以テ必本結ノ字ヲ用ヒテ髻ヲ使ヒ分ルヲ以テ必本結ノ字ヲ用ヒテしよう髪ヲ結ノ字ヲ以テ髻ヲ結ノ字ヲ以テ髻ヲ結ノ字ヲ以テ髻

奈多書紀鈔の字と訓を鈔、字音書東
夷傳まねくうつ玉篇よ大鏬也

奈伎鏬儀式帳

鍬音獘或作鏷鏬○農政全書ニ鎌似レ刀而上彎ル如レ鏬而下直其背指厚長サ尺許柄盈ニ一握ニ以刈ニ草木ヲ或斫ニ栄篠ニ或代ニ鏬斧一物兼用 彎刀同 上 農家便之

蕃名ハアクメス亦セイス

奈多ハ難断也とほせり今圖ふるの着栄蘇城所已竹木ほ切ざしを工語よ寸許乃距鉤あり物ほ引取よ便次されども勿ろく柄太く草莽ヲ分ハ芟ざるべからず是唐山の者とおのづからおなじ



多頭伎 和名鈔即廣刃斧ニ同せり○古事記山多豆註山多豆是今造木ヲ者也ハ雲御鈔よハ柮人也

小斧延喜式 新割

鉄鉞禮王制 鐇集韻廣刃斧 小斧子 忘懐錄

蕃名

書紀よ鋭の質ヲて薪析しおとあるハ今の小斧ふるぐしを又の横あるよりて横切ふるハふるみるよも新撰字鏡よ横刃斧てふもの是ぬ鉄鉞ハ大斧ふり和名鈔工具よ斧ハ平肱とあり又斧斤ハ今ふるよ西斧をいつり手鋤斧の省ふるよや書紀よ鉄鉞賜ふおど書れしハ漢籍よりふ



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1
ガラス使用

れるまて実ハ節刀てふものゝ
ごとく殿より緒を着て左右の肩へ懸
るのはた宿みて歩を運つ泥の
深き沼を引渉し或実播の稲種を
成形圖説巻之十三



前頭及両邊昆起如箕級毛縄前
後繋足底板既闊則挙歩不碍
るの器　凌木　沈存中筆談信安滄景之間冬
ふるとき　刋月作小坐床永上曳之謂凌凍
以椅棘為腹欲其滑以椒梧為背欲其軽腹如小舟昂其首
尾背如覆瓦以便両臂雀躍于泥中繋来藁其首以縛秋日
行千　三才圖會農人蒲草之際寅于時間餘裳斂之
畦　両股既寛行壠上不
苗
行

番名モッドル・モイル　橇　ラアル　雪沓　シカアツ　氷上



加慈伎　仲正歌集○蓋莚を編おむよ
加慈伎るみよりてかゞきそうつと　武
加武慈伎　太平記○今俗皮をて作
義そ云ハ加慈伎の訛せ
曾利　堀川百首初涼雪ふりみち
雪舟の旅くうるよ染もで今津風土記ハ雪車或ハ
又類葉為度の類よ
一をに者やんの仍あるるくん曾利ハ載て寒そ多
てわるくとよめり北国ハて曾利ハ
染て雪の上をもぐらせ行くとぞ
橋史記○轎字彙與橇同○農政全書形如木箕摘行泥
土ノ農人欲就泥裂漫撒麥種奈泥深恐没故制木板為履

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

ゐり雪卑ニ古比須伎古須伎ふど
ちげた平記はかゞきと稲ざるゆ
入ふりそふふふり

稲将俗ニ将亦扱ニ和泉志等ニ三才圖會の拖ニ把
稲将の字と假て稲将ニ充ふり然ども圖譜と稽ニ此器と
異なり

寡婦俗言後家倒ニ云後家注せ凡ソ古昔稲穂拔将扱ニ
つの管ニて挟て穀と莟せふりと呼物數ニ
日ニ數千斛の穀ニを蓄てを便捷と
人ニ傭ふまて稲将ニ委の遺秉の利もまさ
ゆゑよ呼
稲管是大むり稲束ニ
目あり
ゐ稈ニ管ニ入ふいと多むぶろ弊ふれバ今ニ
金管是ニ古昔の竹管ニ
て一枝ニ枝つゞきそぶまふり

い千把将是一日ニして揀稲と将あと
ふ千把の功千把ニ当ニ
箸稲櫛柄箸ニ似ふいふしへ竹の箭のごとく
稲ニざしとき
のゐ物ふり
稲左良衣
拖把農政全書耬麥長把也首ニ列ス二十餘齒ニ短木柄以ニ枇杷
結腰曳之ヲ○耬麦長把ニ注せし八西土陸種がちニ
て麦ニも稲のおとしておふくや閩中ニて大ふる桶
の上ニ拖把ニとゝゐて稲扱ニとゝいつりゐ穂の極て長や
ゝまざゆゐふり固て彼方の禹ニ稲ニとゝ麦
のやうニ稲粉してゐおとゝんさ書ふり
蕃名ヘーケル
和泉志ニ曰拖把俗呼ニ倒寡元禄中高石大工邑人始造其製
横木為臺長可三尺四脚斜ニ支短前脚高與臺長應仰列扇
釘二十齒齒五六寸長投ニ束稲挿入齒縫ニ一扛去葉一日可

收三十束工大省〇いふ一つは稲柳柄箸などつくるものまて稲将ふらんとそのものの後ハ稲穢麥稍をかひそのつゐのこるつゐにいるこれはその稲将ふるものをもやしまりもりもれハ癖まつらき抜よ氣吹抜よ串刺ともいふものは上古より稲穂と取みけ鶏巣そて箸よふねとて稲扱扱るか人乃田地犯しまゐ稲と箸ふんどせんみけさやうのかとそれはゐるさ防ある人志左志てふものどもやふら賊盗律曰其盗之籤稲者損天功之罪也造之者同罪云々籤稲乃字よ著眼すへし形掃よ似るものゆゑ人志乃名あの稲扱田舎乃細り





春稲あとゝ今ふとつゐあり摂津風土記曰河邊郡山本保籤稲村者　大鷦鷯天皇御宇津直沖名田也本名柏葉田沖名造田串罪以田贖鳥故号籤稲村按今の残編風土記断文なし是お事談赤楽法つゐ我思ハ四つ迫おとの稲串の第末乃家の為るとゐまり是お代ひとの串刺のま風ふら未代よもて稲扱そつふものゝ形ら出やるとそこゝ経する家乃ゐき未釈ゑせぎれぞも串刺そハ田扎ふらとゐふ経あるていづまるとゐ稲盗みしものゝおくふれバおもてう為るおそれぞ凡禾稲と箸ものは國よ律あら大辛よ准ふるおそれたいみゝく

臼

颺扇

千斛透

搗杵

撫臼

臥杵

碓



稻櫛

磨

甕

和蘭氷皆

連枷

箕

篩麗

掩杷

稻管

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　　ガラス使用

よの串刺あと犯ヤ尻最重クうしろ

柄竿和名カラサホ鈔

抔古語拾遺○延喜式織具ヨ加世伎ト抔ツ〻あり形相似レハ志ろいつり

旋轉グルリ振撥ブリ轉棒クルマボウ車棒

連枷和名抄亦作枷和名鈔引切韻打穀ヲ具也○釋名枷所以撾ウツ穀ヲ具也○國語勅支勅拂也以テ擊草ヲ○正字通連勅打穀ヲ具一云僉又云耕槌穀ヲ具連枷編テ竹木ヲ為ルヲ挼ヲ打メ而用所以撥ニ落米ヲ栗ヲ也方言自関以西謂之ヲ梮或ハ謂之ヲ柫○廣雅柫謂之ヲ架ト○說文拂ハ架也擊禾連架○農政全書方言宋魏之間謂之ヲ扶或ハ自関而西謂之ヲ橧ト今呼テ為連勅楚江淮之間謂之ヲ抶今呼テ為連勅

稲勅西湖志

蕃名ドルスフレーゲル

輪棒雜字玉堂

輪杵ニヒキヲ穀揚モミカケ

四ものは面の約の頭ほそくして撲ホウ鉏鋸のごとく軸ぬきつゝ柘ニの條或ハ竹なゝを二ツよりあはせのごとくつゝきてなり三才圖會ニ木條四莖ヨツアシなど生革ホシカハ

宇須古事記

竪タテ臼ウス蓋ふたみ〻ハ鼈スッポンの殼ニ似ハ楪ハ臼よ竪ニいふ

幾書紀即杵ノリ幾祢打木ウチキ

黄帝内傳帝既斬蚩尤因舂杵臼

揭ク竺雅の漸ノリ漬よ碌〻々執泥の事ヲ名ヲ臼藝ヲ舂ツク杵同上

蕃名ヘイスル臼スメムプスルヲ亦スメムプストック

後漢書○今石ヲ臼ニ石ヲ梓ありて藥ヲ

以上揚曰臥杵之類　スタムプブロク　撫曰

宇須ハ打窠の義或謂宇ハ揚あり須ハ舊名也一名ま両物あり狂今磨揚とつゐがごとし又上ゟ下ゟ棱て中捐細く杵ハ直みて両端太きを揚曰揚杵とゝふ又ゟ下ゟて筒のごとくを趣け上の方径まるものを撫曰撫杵とゝふ　楊升菴集卽杵卽手杵なり　貞觀儀式よ曰ハ某腰杵みハ某牧とあり○越風礒歌曰野人傳云人或有務於耕稼者早且往田執杵以為耒耕田三畝餘手足疲倦将休息換之乃杵也驚愕怪之再耕之不能復耕也其初為耒操心專一力行不疑是以杵為耒之用既知非耒則杵亦不能為耒也

何則心為之主也誠於此者刑乎彼也石猶飲羽況於人乎

陶曰貞觀儀式

按受焼物の曰ゟや迎喜神祇式よ數所載ゟ焼物まて八束ゟゝぐ多くとゝのねど祖異の束ハ太轄ゟゝぐゟゝざるがゆゑともいつり又室町日記よ胡桃まて収束を漬されば通ども土宗ひゝねど曰杵ふくゝ如のやくとわゟよ所よ夫ゟ山林よ幼て木乃枝どもを伐為して杵よして扱いふも學地を掘て遊ゟ押込と曰ふしくゝきりれバ言澄通断よゟゝとゝ曰ゟ易繋辭よ堯舜氏断木為杵掘地為臼盖ゟ始ハ天然ゟてゟゟ



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

ぐまゐもり

柄（カラ）曰萬葉集○柄即碓也踏（フミカス）曰畿内ハ西の方名なり東國の郡（コホリ）にて地柄（カラ）と云

柄（カラ）曰壺（ツボ）郷談正音ヨ碓（キネ）圏亦碓（キネ）挨（ツキ）そと云

柄（カラ）曰杵（キネ）即碓嘴

横噛（カミ）ら云郷談正音ヨ碓（キネ）欄（ナラ）亦碓（キネ）校（ツキ）そと云

保呂（ホロ）志俗言（ナマリ）樟（キ）なり正字通ヨ碓衡一名

保呂々木（ホロ〳〵キ）或俗ハ抵

島木（トリキ）碓の前ヨ凸所ありて形鳥居ヨ似ゐる

碓品字箋碓、春具木杵上之石、嘴也○兼名苑碓一名磃又

碓（キネ）曰碓（キネ）臼所以受米ヲ碓（キネ）其舂也此石をそく杵とするヨ

把（ツカ）石（キ）嘴（ハシ）と仍る八秋葵の種と水ヨ浸しそ汁を用て杵の端を石ヨて磨（スル）ふてゐるより秋葵の根汁よく石を磨（スル）べし

番名タラプ・ヘイセル

此（コレ）もの八艱（ナヤ）難と強（シヒ）りて米を精（ツク）る所ありて葉のかるゐ須ヨ田舂（タツキ）のこと云ヨ吾兄子（ワガセコ）ハふれ笑（エミ）て立ませるそ舂（ツキ）ものを契沖八軽（カル）確（ウス）そふみとるやから笑（エミ）てとがの兄子（セコ）ふこく笑（エミ）るゐゐぐ須を田舂（タツキ）のこと云ヨて立ませふらゆるとものやからるさゐ須ヨ踏（イタリ）ら芳そくもれバよふよむじそ物ヨ月ヨ擣（コツ）の蟬のなくかごれどぎよハるへのごとくとものやからうそのまゝハやうからうら桓子新論云伏羲制杵臼之利、後世加工ヲ惜身ヲ践碓而利十倍確（カタク）ヨて舂ハ米碎（クダケ）耗ざるや

横曰古事記與久須ゝ漢め
曰里古字の反々あり
磨曰和名鈔又須留
曰須と漢めわ　久留返伎毛乃　枕艸　田曰唐曰の
ハ是か　穀磨曰和爾雅　子　字よ仮々
礦音龍世本所以破穀出米也○三才圖會自山而東謂之
礦編竹作圍內貯泥土狀如小磨仍以竹木排為窓齒方
謂之木礧石鑿者謂之石礧　兼名苑礦一名磚　簞稻世本
礦以上類　土礦幼學　挨粟礦稻子　木礦　木磨　穀托
石書纂要以上鄉　須知　椿櫧子　椎礦
子談正音

蕃名コールンモール

ものは田あき穀地磨ぎ米地仍る
ま乃製あら田あ乃要ま乃ら田ま
記よくるつきものとふ今のそらうんとふみの事
ま眩の字と同のくらめくとふ物のまろ
と俗よくるくととくるめくまとあ詞もこの理よれ
うてまとふ言をまでし○仍曰八束脛を足でし○仍曰八束脛を足でし
ら一女年よ八頃と易仍改ざ
多く本曰と用うきれど古人の書
曰乃眼天工開物　引木赤引手ふ云
曰乃眼よ磨眼　耜耕録よ木肘

阿通宇須和名鈔
引曰　石曰和爾雅○越風礎歌訓曰越俗之所傳石曰屑
粟偶而挽之歌也男女説以忘勞粉米食之

麥ヨ麥ヒ引破ヒ粉ヒ
もるよりもる

磨 說文石磴也蓋古の磴ハ或ハ木もちゝく作もる 礦磴唐律礦ヽ磨上ヽ轉ヽ石品字 石礦五雜組

篾 ウスヨ即礦也○三才圖會上ヨ臼ヒ填磨ヲ曰ヽ碉ヒもる下ヨ床曰ヽ擣ヽヒもる もる○同上主ヽ磨曰ヽ瞻注磨曰ヽ眼 引ヒキ木同上轉磨曰ヽ榦 宇ヽ須承ヘケ同上承磨曰ヽ槃 臼乃眼メ同上

蕃名ステーンモール 磨

天智紀ヨ高麗の畫ヽ徵礦磴ヲ對ヅルとあれどヽ書紀集解引景行紀大碓ウス小碓ウス二皇ミコ子之名義曰ヲ大碓即礦也小碓即磴也とあるヽヒ宜もる所ヒ必畫徵ヨ始もヨハ知もゝ

四ヒの名ヒて作もる全體ヒ圓ヒて堅ク本石の別ヒ大小の異もるのヒ圓ヒ名ヒ立ヨ孟杵臼の制受ヒて巧便ヒカヽて柄カラウス臼ヲ組ヒ又通ヨ小柄カラウス臼の設ありヒ臼礦ヒ ヽヒ ヽヒ ヽヒ

ヨヒて固事おのつゝ殊メタヽありヨ臼ヽ臼碓カラクス曰磨ヒキウス 礦ミウス四乃者方ヽ言稱異ヨ古今或ハ混マギヒもるヽヒありヒ

ヒ悟もゝていさゝヽ圖書もり

美古事記○即箕也

箕乃舌本州箕脣正音ヨ簸箕ヽ 簸箕邊ヒいつり

箕音姬篇海箕揚米去糠之具方言陳宋楚之間謂之簸○凡箕の古文十餘字典ヨ見ゆ



国立国会図書館 タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1 ガラス使用

布流 比 和名
鈔

世伊籠　米透 西州まて多く此名とつ
ア 東國ハ稀ニ用ゆ

籠 音漱 或作篛篩 和名鈔引
說文篩除麁去細之竹器也　米篩

蕃名セーフ

籠ハ新撰字鏡ニ豆支布留布ト和名抄ニ
曾留トあり今ミな箕ニ似て粗ク糠ヲ簸ヒ
人ヲそゝのかすなどの詞あり○籠ニも
凡そ眼の麁ハ遖トいひ密なるハ布留比ト
雅ニ布流ニ振ヒ動ヒて用ゐるをいふなり

番名ワン
通證引一氏說曰箕者ハ去皮殼留子實故訓爲實○此ヲ
の和泉上村のものを名品とす所謂和泉箕ニ
お糠ヲ去ヒ簸ルニ莊子ニ播糠眯目ト連ヒあるハ今
言ひふるす朱子談綺ニ箕ハてふくと播弄ニつくあ
ア○曲禮ニ箕除塵埃之器ト云ヒ、国音塵取ニつく
ハものにて形箕のごく扠ハて作ルニふるひ軍陳ニても
ク塵取ニ称ヒしかど實践ニ記ヒしものにて今の
通ハシ製しニつゐて相似ニ

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

鉤籠（カギコ）

節穀笏三才圖會

蕃名ハングセーフ

麁笥（アラハコ）延喜鎮魂祭式ニ於官齋院春稲簸（ヒ）以麁笥（アラハコ）炊ニ以韓竈ニ

穀車（モミグルマ）多識編通箕（トヒ）

颺扇三才圖會ニ集韻颺ハ風飛也揚穀器其制中ニ置ニ箕軸ヲ刺ニ穿四扇或六扇ヲ又謂ニ之ヲ扇車ト圖繪宗彝天工開物風扇車風櫃玉堂雜字

蕃名ワンモール

弍の春稲ヲ簸（ヒル）ハ是粃（モミガラ）揚（アゲ）てこれを簸（ヒル）とも稃（モミガラ）を遠（トホ）し簸

扇米風車

麁笥（アラハコ）ハ麁篭（アラコ）のごとく竹眼の麁（アラキ）節（フシ）をもてその笥（ハコ）をつくるものなり今の粗（アラ）米（ゴメ）籠のごとし

穀車ハ穀（モミ）の製のおもきをもてその制（セイ）を創（ハジメ）て作（ツクル）ものなり今の風車（カザグルマ）の類（タグヒ）なり

箕の変製（ヘンセイ）ありて通箕（トヒ）をおもに農夫ハ蟠（セト）通風（カゼヲトヲス）ふるの上よりおとす竹（タケ）篾（ヘギ）或（ハタ）籠（コ）ようの物（モノ）を用（モチヒ）ハ飛散（トビチル）を禁（フセ）ぎ遅（オソ）く落（オツ）るを以（モツテ）よく穅（モミガラ）を除（ノゾ）き去（サル）ゆゑ農家（ノウカ）ハ必（カナラ）ず用（モチヒ）る物（モノ）なり

扇車（アフギグルマ）ハ風（カゼ）を生（ショウ）じて穅（モミガラ）を去（サル）ゆゑ農家（ノウカ）ハ必（カナラ）ず用（モチヒ）る物（モノ）なり

ふるき地志（チシ）を按（アンジ）て簞遠美（タンヲンビ）ふるの唐箕（トウミ）あるを書（カケ）る所（トコロ）の字（ジ）なり

簞（タン）と箕（キ）と通音（ツウオン）



国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　ガラス使用

多天流和漢三才圖會○今多く篩及楯を用ゐ風
ふるひ之とゝゝ粃糠と去殻とつて
志節麁亦名をゆくそを
見ひろひ
賜簸三才圖會ニ形如箕而小ク前有木舌後ニ有竹柄禾穅糠粃
相雜執此揲而向風擲之乃得浄穀不待車扇又勝箕
簸
邊箕 全漸
共制

蕃名
千斛箆和漢三
才圖會 萬斛箆但ふるの
蕃名ハルプ
山その新制あり底なき大箱二と重ふ
たるより右さゝ斜よ板を嵌こび級の棚中より右さ
ゝ斜よ板を嵌こび級の棚中より右さ





ゆ鉋絹ゝ嵌ゝ絹究緻密よりて上より来糠のいまゞ簸
ざるその投ぐるよ之上級の板を右よゝ之次よ
の網とたるよゝ之ふ糠ハ網より脱漏ゝ来ゆ漏ゝ
ておよ出ゝを別器よ受ゝるもの之ゝ
もゞして日よ蕃ゝ来の粃糠とふ
ふゞ為よ俗用ゆり或習ゝ風車あり

成形圖說卷之十三終

国立国会図書館　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1　　ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『成形図説 30巻』 請求記号 145-1

ガラス使用